

社会資本総合整備計画
都市再生整備計画 フォローアップ報告書
油津地区 (3期)

平成30年2月

宮崎県日南市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	1日平均歩行者・自転車通行量	人/日	2,950	4,100	3,914	確定 ●	△	あり ●	4,840	H29年8月	○	市民活動支援センターや子育て支援センターの効果が見られた。	☒ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	市民活動支援センターや子育て支援センターの供用開始により、効果が得られ、目標の達成となった。
					見込み			なし						
指標2	社会基盤整備に対する満足度	5段階評価	3	4	3	確定 ●	△	あり		H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	満足度（5段階評価）は従前よりも僅かながらも増加（加重平均5.73→5.87）しているものの、満足度として思うような成果は出なかった。当該事業が満足度の指標に直結した事業ではないため、その他の指標1による効果発現の計測も行った。
					見込み			なし ●						
指標3						確定		あり		H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
					見込み		なし							

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指 標		単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
					評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	まちづくりに対する満足度	5段階評価	3.59		3.65	確定	●			H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	「満足」「やや満足」の回答が過半数を占めており、まちづくりの取組みについて、概ね地区住民の理解と満足が得られていると考えられる。評価値も、従前値と比べ、僅かながらも増加している。
						見込み								
その他の数値指標2						確定				H 年 月			☐ 改善策はそのまま ☐ 改善策に補強が必要 ☐ 新たに改善策をたてる	
						見込み								

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策 (事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	魅力的な基盤整備の推進及び適正な維持管理	道路の舗装やグレートアップ等の魅力的な基盤整備を実施するとともに、良好な状態を保つために、適正な維持管理を行った。	まちなかを回遊させる道路の高質化が保たれることにより、観光地化を推進するための基盤を形成することができた。	まちなかを回遊させるなどの観光地化の推進が図られたので、引き続き良好な状態を保つため適正な維持管理に努める必要がある。
	施設の利活用や店舗等への誘客	油津エリアマネジメント会議を設置し、事業において完成した施設や店舗への誘客などを議論するとともに、まちづくりにおける持続的な連携体制の構築を図った。	油津エリアマネジメント会議での議論や、市民ワークショップの開催等により、住民と一体となった取組が推進された。	構築された官民一体となった取組の維持・継続を行うとともに、各種施設の積極的な活用と、認知度の向上を図る必要がある。
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	人が集まる魅力拠点の形成及び交通利用環境の充実	人を呼び込むための魅力的な拠点づくり。 駐車場等の交通利用環境の向上。 複合ビルや立体駐車場と商店街のストックを効果的に活かすためエリアマネジメントの実施	イベント開催や企業誘致等により、中心市街地に賑わいが生まれた。また、駐車場の整備により居住環境の向上が図られた。	人が集まる拠点の整備や、住民への周知による認知向上、エリアマネジメント事業により継続的な取組を行う必要がある。
	回遊を促進する戦略プランの策定	市民が主体となったまちあるきイベントの企画・実施。	地域にある資源の掘り起こしや再認識ができたことや、まちあるきイベントに参加した住民意識の変化が得られた。	まちあるきイベントの継続的な開催のほか、一過性のイベントにとどまらず、日常的に体験できる回遊プランの構築、観光ガイドの育成等の新たな取組を行う必要がある。
	子育て支援センターにおけるサポーターの継続と発掘	木育をコンセプトに整備した子育て支援センターにおいて、木育ワークショップの補助や利用者との交流などを行うボランティア (サポーター) の養成講座を実施した。	サポーターになる住民が増え、木育を発信する機会が増加するとともに、利用者との交流促進が図られた。	子育て支援センター利用者の増加を図るためのPRを行う必要があるとともに、利用者を商店街などまちなかへ誘導する仕組みづくりが必要である。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画（第7回変更）

あぶらつ
油津地区

みやざき 宮崎県 にちなん 日南市

平成29年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	宮崎県	市町村名	日南市	地区名	油津地区	面積	73.3 ha
計画期間	平成26年度～平成28年度	交付期間	平成26年度～平成28年度				

目標

- 日南市中心市街地活性化基本計画に掲げる目標である、
- 目標1：市民の魅力拠点、魅力ある観光地として人々を誘引し、「来てよかった」「また来たい」と思われるまちづくり
- 目標2：多様な都市機能の集積によって生活利便性の向上を図り、居住環境を向上させることにより、人々に「住みたい」「住み続けたい」と思われるまちづくり
- を達成するため、本整備計画では以下の目標を掲げ、本市の顔である中心市街地の再生を図る。
- ① 既存観光施設を起点として登録文化財や地区内に残る町家を散策できるなど、回遊ルートの整備により、来訪者の増加を図る。
 - ② 商店街などのエリアと堀川運河周辺のエリアを結ぶルート上において、市民や来訪者にとって快適な環境を形成し、中心市街地の活性化や交流人口の増加を図る。
 - ③ 油津赤レンガ館をはじめ、油津地区内に現存する歴史的な景観の保全・形成に関する諸施策を実施し、魅力的なまちづくりを推進する。
 - ④ 中心市街地における利便性の高い駐車場の整備、地区内循環バスの運行社会実験により、中心市街地へのアクセス性及び回遊性の向上を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

本市の中心市街地である油津地区は、古くは室町時代から明国との交易の寄港地として栄え、江戸時代には飢肥杉を搬出する重要な港として、そして大正時代には東洋一のまぐろ基地として繁栄を謳歌してきた。

当該地区の中心部には1686年飢肥藩五代目藩主伊東祐実によって開削され、油津地区の林業、漁業の中心となった堀川運河が今でも現存し、堀川橋、木造三階建て銅板葺きの商家、レンガ造り倉庫などとあわせて文化財に登録され、それらを中心とした歴史的な町並みが残されており、平成8年度には(財)日本ナショナルトラストによる調査も行われている。また、堀川運河埋立に対する「油津堀川運河を考える会」の保存運動や歴史的建造物の油津赤レンガ館の保存活用など、地元住民が主体となったまちづくり活動が展開されている地区でもある。

そのような中、県の油津港湾事業による堀川運河護岸整備にあわせ、県内外からの来訪者などの交流人口の増加や、まちの賑わいの再興を目指し、まちなかの魅力拠点整備を県と市が一体となって進めていくために、平成15年度には篠原修東京大学大学院教授(現東京大学名誉教授)を委員長として、学識経験者、専門家、市民、行政が参画し、県と市が合同で事務局を担う「油津地区・都市デザイン会議」を設置し、議論を進めてきた。

本市は、合併前の平成19年に、中心市街地の活性化を図るために、基本計画の認定に向けた議論をスタートさせ、平成20年に中活法に基づく第三セクター会社である「日南まちづくり株式会社」が、翌21年には「日南市中心市街地活性化協議会」が設立され、官民協働で中心市街地の再生に向けた議論を進めながら、中心市街地活性化基本計画を策定し、平成24年11月30日に内閣総理大臣の認定を得た。

また、認定中活計画の実施管理にあたっては、これまでに中心市街地の再生に向けた議論の場として組織してきた「油津地区・都市デザイン会議」と「日南市中心市街地活性化協議会」を両核に、国・県の関係機関や民間団体が参画した「油津まちづくり会議」を平成24年に設立し、認定中活計画に基づく事業の効果的な実施に向け、更なる議論を進めている。

一方、中心市街地の再生に向けた整備については、平成17年に、「歴史的資産を活かしたまちづくり」を目標に、平成17年度から21年度を計画期間とする都市再生整備計画(第1期計画)を策定し、本交付金事業を活用して道路・公園・景観形成等の事業を展開し、中心市街地の再生に向けて一定の社会基盤の整備と効果的な利活用に向けた基礎を整えてきた。

平成22年度から25年度を計画期間とした第2期計画では、第1期計画に引き続き、堀川運河周辺のエリアを結ぶルートの整備を行うとともに、登録文化財や地区内に残る町家を散策・回遊しやすいルートの整備を進め、市民や来訪者にとって快適な環境を形成し、中心市街地の活性化や交流人口の増加を図ってきており、今後も引き続き、認定中活計画に基づいて、更なる魅力的なまちづくりや賑わいの再興を図るために、計画的な諸施策の実施が必要となっている。

課題

当該地区では、これまで道路・公園・下水道などの社会基盤整備を推進するとともに、歴史的資産である油津赤レンガ館の整備や景観形成などの諸施策を、都市再生整備計画(第1期及び第2期)を活用して実施し、「まちのにぎわい再興」に向けて取り組んできた。

しかしながら、中心市街地活性化基本計画策定の過程や2期計画の提案事業を活用して設置した油津まちづくり会議での議論を進める中において、中心市街地を本市の顔として再生していくためには、これまでの整備を活かした下記の事項をもって、中心市街地を魅力的で快適な空間として更なる整備を進めていくことが必要である。

- ①堀川運河周辺の登録文化財を活かした観光地化の推進によって来訪者の増加を図ることが必要である。
- ②堀川運河周辺や天福公園(プロ野球キャンプ見学等)に訪れた来訪者を、商店街などのまちなかに誘導する仕組みづくりが必要である。
- ③歴史的なまちなみが現存しているが、歩道や案内板、照明施設などがなく、来訪者が時間をかけて回遊できる道路・サイン等が必要である。
- ④市民が余暇を過ごす、魅力的で快適な空間を形成するために、空き店舗の有効活用、まちのコミュニティを形成する交流施設、駐車場の確保、歩行空間の向上などが必要である。

将来ビジョン(中長期)

堀川運河周辺整備や歴史的資産を活かすとともに、駐車場・散策道路・案内サイン等の整備、港町油津の町並みの景観形成などによる観光地化を推進するとともに、快適な市街地環境の実現と魅力的なまちとして再興し、賑わいのある中心市街地を目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1日平均歩行者・自転車通行量	人/日	中心市街地の1日平均歩行者・自転車通行量	商店街周辺と堀川運河周辺を結ぶルート整備、案内サイン等により、散策・回遊のできる環境整備を整え、地区内における交流人口の増加を図る。	2,950	平成25年度	4,100	平成28年度
社会基盤整備に対する満足度	5段階評価	アンケート調査による満足度のアップ	市民や観光客が訪れたいくなる魅力的な空間形成により、来街者にとって、快適なまちとしての満足度を高め、魅力的なまちづくりの再興を図る。	3	平成25年度	4	平成28年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	
・既存観光施設を起点として登録文化財や地区内に残る町家を散策できるなど、回遊ルートの整備により、来訪者の増加を図る。 堀川運河等の地区内に点在する歴史的・文化的資産、登録文化財を回遊する道路整備と、観光交通と生活交通を分離した地区交通マネジメント施策の実現を目指し、地区内歩行者用道路の整備や案内サイン等を整備するとともに、来街者が楽しみながら散策できるシステムを構築することにより、回遊性が高く魅力的なまちづくりを一体的に進める。 更に、堀川運河をはじめとする油津地区の魅力を全国に発信し、来訪者の増加を図る。	方針に合致する主要な事業 地域生活基盤施設（基幹事業：まちなか案内サイン整備事業） 高質空間形成施設（基幹事業） まちづくり活動推進事業（関連事業）
・商店街などのエリアと堀川運河周辺のエリアを結ぶルート上において、市民や来訪者にとって快適な環境を形成し、中心市街地の活性化や交流人口の増加を図る。 歩行者（市民、観光客）の安全性と快適性の向上を図るため、文教地区における歩道や堀川運河周辺から堀川公園（堀川夢ひろば）にかけてのルートを整備する。また、堀川公園（堀川夢ひろば）においては、給水設備、緑陰を作る豊かな植栽、ベンチなどのストリートファニチャーの設置による、堀川運河にマッチした水辺の憩い空間の創出、商店街においては、店舗景観の整備や交流施設整備、空き店舗の解消、イベント等の実施によってまちなかの魅力を向上させ、利便性の高い地区内への居住を促すとともに、堀川運河周辺及び商店街周辺への来訪を促し、居住や地区内での回遊により賑わいの創出を図る。	街路事業（基幹事業：木山通線） 地域生活基盤施設（基幹事業：まちなか案内サイン整備事業） 高次都市施設（基幹事業：子育て支援施設事業） 高次都市施設（基幹事業：市民活動支援センター整備事業） 高質空間形成施設（基幹事業） 公園事業（基幹事業：水辺の集い空間づくり事業（堀川公園（堀川夢ひろば）整備）） まちづくり活動推進事業（関連事業） 岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（関連事業） 岩崎3丁目西地区優良建築物等整備事業（関連事業） 多世代交流モール整備事業（関連事業）
・赤レンガ館をはじめ、油津地区内に現存する歴史的な景観の保全・形成に関する諸施策を実施し、魅力的なまちづくりを推進する。 登録文化財であり、油津地区のまちづくりの核施設である油津赤レンガ館をはじめとする油津地区のストック等の利活用について、学識者、専門家、市民、民間事業者、行政機関が一体となった「油津まちづくり会議」を組織し、検討を図るとともに、各種事業等の進行管理・調整を行う。 また、景観条例や景観計画に基づき、油津地区の景観形成を地域住民とともに推進する。	地域生活基盤施設（基幹事業：まちなか案内サイン整備事業） まちづくり活動推進事業（関連事業）
・中心市街地における利便性の高い駐車場の整備、自転車利活用社会実験により、中心市街地へのアクセス性及び回遊性の向上を図る。 中心市街地の中心部に収容台数の多い駐車場を整備し、車利用者の利便性を高めるとともに、自転車利活用社会実験で域内の回遊性を高める。	岩崎3丁目西地区優良建築物等整備事業（関連事業）
その他 事業終了後の継続的なまちづくり ・社会基盤の整備による地域内の環境改善、散策・回遊ルートの整備、堀川運河周辺の歴史的資産の利活用など、事業効果の検証やPRを行い、市民と行政が連携したまちづくりを継続的に推進していく。 交付期間中の計画の管理について ・交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果を挙げるために、「油津まちづくり会議」において事業の進行管理・調整を行う。	

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	598.0	交付限度額	269.1	国費率	0.45
---------	-------	-------	-------	-----	------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考) 事業期間		交付期間内事業期間		(参考) 全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費	費用便益比 B／C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度						
道路		市道木山通線歩道改修事業(木山通線)	日南市	直	180m	H28	H28	H28	H28	25.1	25.1	25.1		25.1	—
道路															
道路															
道路															
公園		水辺の集い空間づくり事業(堀川公園(堀川茅ひろば))	日南市	直	18,790.5㎡	H28	H28	H28	H28	1.5	1.5	1.5		1.5	—
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設		まちなか案内サイン整備事業	日南市	直	-	H22	H28	H26	H28	38.1	16.6	16.6		16.6	—
高質空間形成施設		西町材木町線ほか2路線	日南市	直	-	H18	H28	H26	H28	1,224.9	294.4	294.4		294.4	—
高次都市施設		子育て支援施設事業(子育て世代活動支援センター)	日南市	直	S=633.99㎡	H27	H28	H27	H28	158.2	158.2	158.2		158.2	—
高次都市施設		市民活動支援センター整備事業(地域交流センター)	日南市	直	S=632.84㎡	H27	H28	H27	H28	102.2	102.2	102.2		102.2	—
中心拠点誘導施設															
連携生活拠点誘導施設															
生活拠点誘導施設															
高齢者交流拠点誘導施設															
既存建造物活用事業(高次都市施設)															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型														
	沿道等整備型														
	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										1,550.0	598.0	598.0	0.0	598.0	—

...A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負分担		交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負分担	うち民負担分	
地域創造支援事業														
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0…B
													合計(A+B)	598.0

...B

[illegible]